

「NPO法人ピアサポートネットしぶや」における  
アウトリーチ実地研修  
～研修内容と、学んだこと～



NPO法人サポートハウスほほえみ  
青少年自立支援ホーム 一歩

研修期間・平成25年9月30日  
～平成25年10月11日

## 総論

- 1、アウトリーチ
- 2、地域づくり
- 3、連携・ネットワーク
- 4、コーディネート

## 総論

- ネットワークのベースは個人と個人とのつながりであり、一人の人間としてのつながり。それはパートナーシップであり対等。そして信頼感によって成り立つものである。
- 個人ネットワークや団体が「共に何かをしよう」と動くとき、  
そこに**共働・連携**が生まれる。
- それが公的つながりとなれば、それはフォーマルネットワーク。個人的つながりがベースにあつての協働ならば、それはインフォーマルネットワーク。その**両ネットワーク**の長所を生かし、短所を補いながら**地域**をつくっていく。
- そのつなぎを行うのが**コーディネート**であり、継続して運営していくのが**マネジメント**。
- こうした**地域づくり**のなかで、困難を抱える人や家庭とのつながりをつくる方法論の一つが**アウトリーチ支援**。もちろん、**アウトリーチ**も**ネットワークチーム**によりなされるものである。

## 各論1 「ピアサポートネットしぶやと その活動について」

- ① 「ピアサポしぶや」の設立経緯について
- ② 「ピアサポしぶや」の立ち上げにおける  
社会背景と経緯
- ③ ピアサポート支援について
- ④ ピアサポート支援の流れ・全体像
- ⑤ ピアサポーターについて

## ① 「ピアサポしぶや」の設立経緯について

- ・ 「ファンイン(地域づくり団体)」の設立の一環。
- ・ 設立の経緯から、居場所と地域のつながりを重視。
- ・ 地域の若者が抱える課題に対し、対策型から課題解決・育成型支援へ。
- ・ フォーマルな制度や機関(社会資源)と、インフォーマルなつながり。
- ・ 両者をうまくつなげ活用して、地域を創っていく。

## ② 「ピアサポしぶや」の立ち上げにおける 社会背景と経緯

教育委員会や学校現場、そして社会やマスコミでも、不登校がクローズアップされだした時期。

少年犯罪の多発。

学校や適応教室への付添い・送迎からスタート。

→義務教育終了後も支援継続を目指して設立へ。

### ③ ピアサポート支援について

対等な関係の仲間。

自助グループ→障害者福祉→教育現場...というように、社会の中でのピアサポート活用の広がり。

プロではない、素人の支援の良さ。自然体での関わりができる、技法にこだわらない、設定された「面談」ではなく、アクティブに「活動」活動現場への付添いが行われる、精神的に寄りそえる。

ペースに対等な信頼感。そのうえで、関係性を構築し、人間関係と活動の場を広げていく流れ。



### ④ ピアサポート支援の流れ・全体像

- 1、寄り添う
- 2、気持ちを引き出す
- 3、複数での対話経験・集団活動

#### ④-1、寄り添う

- 言葉・視線・何気ない態度で、優しく親しめる雰囲気をつくり伝える。

#### ④-2、気持ちを引き出す

- 言葉で表れないことを感じ取る。
- 親身に向き合おうという気持ちを表す。
- 「何も考えていない」ということはない。
- 何かがあって自分を表現できないだけ。
- 「この人はちがう、この人になら...」と思ってもらえる関係の構築を。

#### ④-3、複数での対話経験・集団活動

- 他者や外部との関わりを、自然な流れでつくっていく。
- 協力し、学び合う関係づくり。自分のことを受け入れ、わかってくれる他者がいないと行動につながらない。

#### ⑤ ピアサポーターについて

- ボランティア性、対等性、柔軟性、非専門家だからこそその寄りそい。
- 変化を察知できるアンテナを常に張っておく。そうして気づいた情報を、関係者みなで共有し、チームとして問題や背景をきちんと把握する。
- ピアサポーターによるアウトリーチに求められることはまず、変化を見逃さないこと。
- そして孤立化させないということ。家族以外の第三者が関わる、最初で唯一の機会。
- 非専門家である限界も認識しておく。強度のひきこもり状態や、精神疾患への対応など。そうしたケースで、外部に相談・連携できる専門家のネットワークを構築しておく。

## 各論2 「地域連携・ネットワークでの支援」

### ①NPOと地域連携について

### ②「ピアサポしぶやH25年度社会福祉事業」の事例



### ① NPOと地域連携について

- 自立型NPOとなるために、自分たちの位置づけを。教育系、福祉系、就労支援、地域づくり...など。
- そのうえで国や社会の動向とニーズ、地域の課題にアンテナを張る。
- 地域連携とは、地域参加であり地域づくり。

## ② 「ピアサポートネットしぶや H25年度社会福祉事業」の事例1

- 厚労省H25年度セーフティ支援対策等事業費「ひきこもりパートナーシップ支援社学産連携推進」で「伴走型」支援を謳い実施中。
- 地域ネットワークにより支え合いがうまれるコミュニティをめざす。
- 仕事に就いていない人が職に定着するまで、地域のネットワークで寄り添い型の支援を行う。

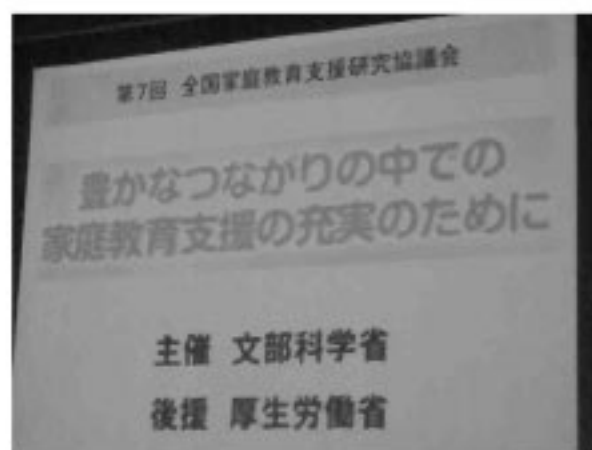
## ② 「ピアサポートネットしぶや H25年度社会福祉事業」の事例2

- 地域ネットワークのなかで、本格的な就労に向けた準備として「中間的就労」の場を用意する。
- ネットワーク構築と運営には、コーディネート窓口と体制(システム)が必要。その窓口をピアサポしぶやが担う。
- キャリア教育と評価を青学大が担う。
- 民間NPO・大学・企業・地域の連携による支援の取り組みモデル



## 各論3 「本人をとりまく家庭・家族との関わり」

- ①国の家庭教育支援の動向について
- ②ピアサポしぶやでの家族支援について



### ① 国の家庭教育支援の動向について

- 近年、家庭支援にアウトリーチ導入の流れ。
- チームによる支援が効果的(不登校の改善・減少と支援者の負担減のデータをあり)。
- 担当者の不足が最近の課題→孤立しがちな家庭に支援が届いていない。
- 非専門家であるピアサポーターにも、人材育成の研修の必要性を文科省も認知。